

2022年3月期 決算説明資料

 KURABO

2022年5月19日

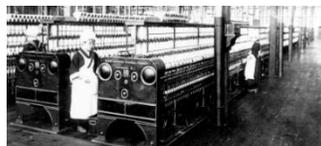


- **会社概要**
- **2022年3月期の業績**
- **新中期経営計画「Progress '24」**
 - 長期ビジョンにおける位置づけ
 - 前中期経営計画「Creation'21」の振り返り
 - 新中期経営計画「Progress '24」の方向性
- **SDGsへの取組み**
- **2023年3月期の通期業績予想**
- **Appendix**

会社概要

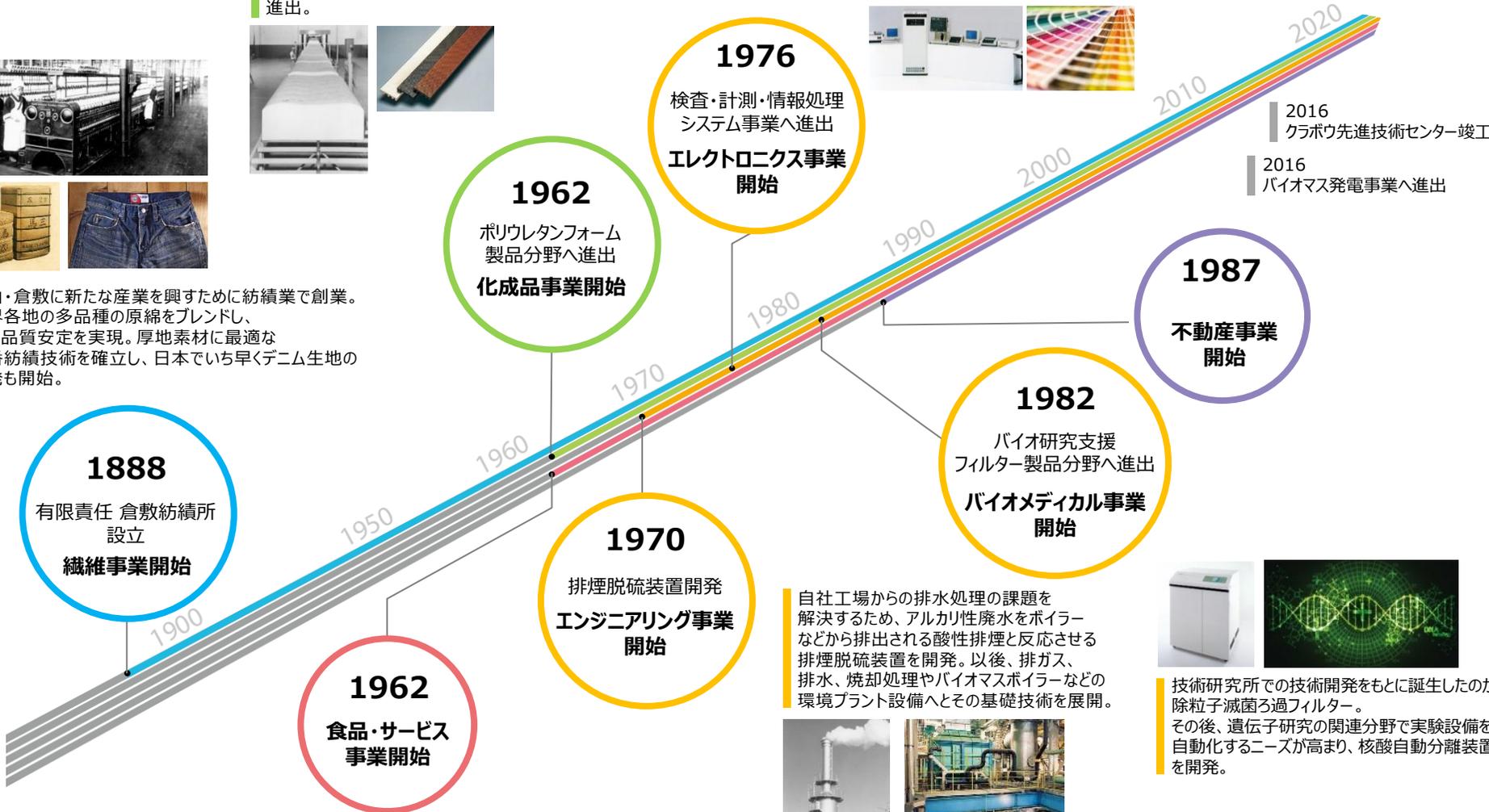
- **1888年創業** の、134年の歴史を有する **大手繊維メーカー**
- 化成品、環境メカトロニクス、食品・サービスなど **幅広い分野** に事業領域を展開
- 創業当時より、**環境保全** や **社会貢献** にも積極的に取り組んできた歴史
- 技術研究所を中心に**独自技術**を深耕し、「スマート衣料」や「ロボットビジョンシステム」など、新しい社会を見据えた **イノベーションの実現** にも取り組む
- 急激な環境変化やコロナ禍の影響を受け、ここ数年の業績は伸び悩むも、**成長・高収益領域** の拡大により、**持続的成長** を目指す

マットレス用の側生地を販売していたことから
マットレス用の軟質ウレタン製品も手掛けるように。
やがて住宅の断熱需要の高まりとともに
硬質ウレタンフォームを用いた住宅建材分野へと
進出。

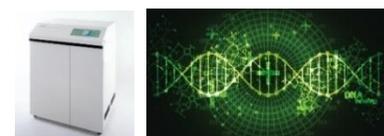


岡山・倉敷に新たな産業を興すために紡績業で創業。
世界各地の多品種の原綿をブレンドし、
糸の品質安定を実現。厚地素材に最適な
太番紡績技術を確認し、日本でいち早くデニム生地
の開発も開始。

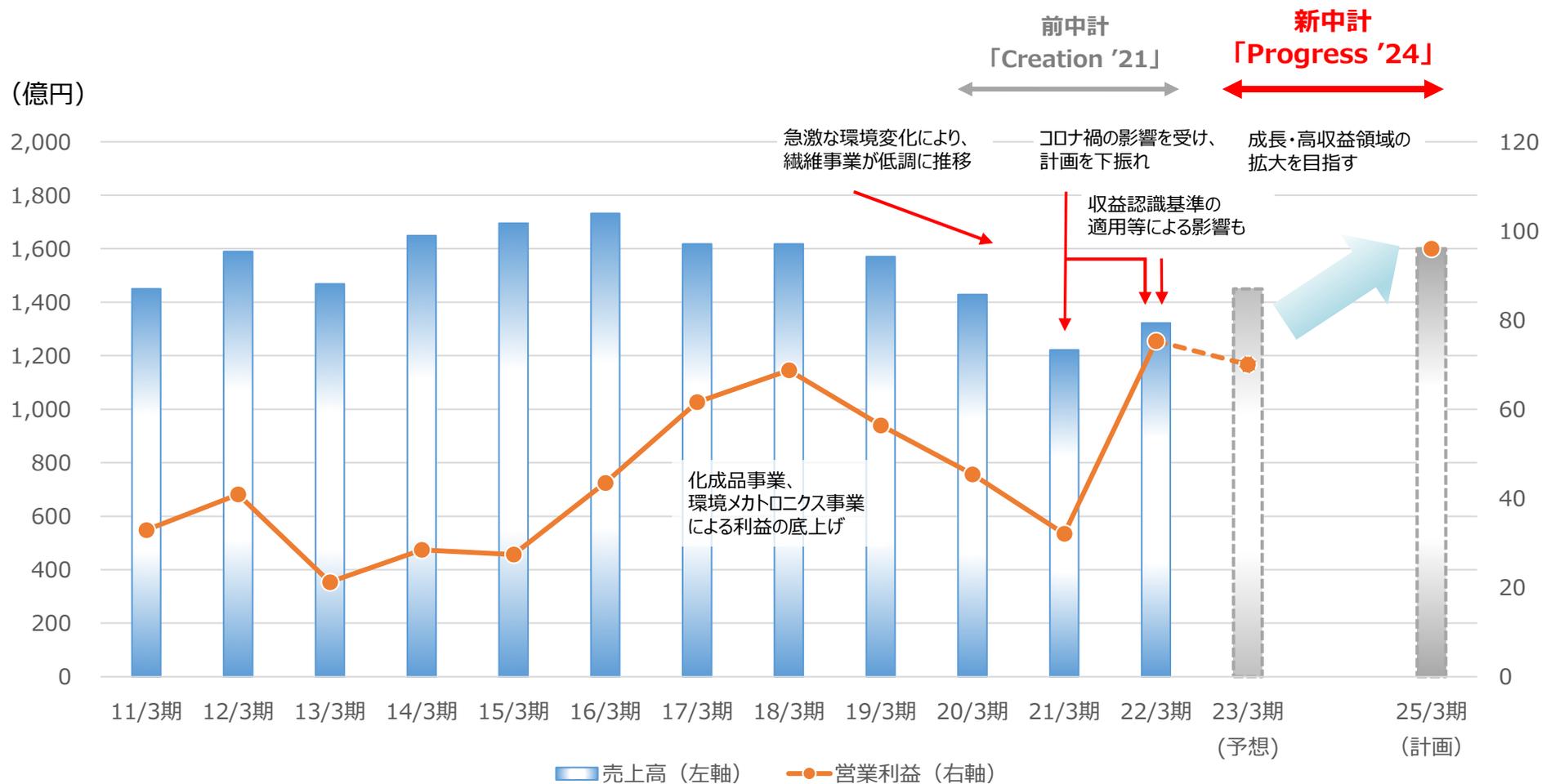
自社の染色工場の「色」を制御するため、染料配合を正確に
算出し染料を厳密に計量する技術を確立。
CCM（コンピュータカラーマッチング）システムとして商品化し、
検査・計測、情報処理へと技術を展開。



自社工場からの排水処理の課題を
解決するため、アルカリ性廃水をボイラー
などから排出される酸性排煙と反応させる
排煙脱硫装置を開発。以後、排ガス、
排水、焼却処理やバイオマスボイラーなどの
環境プラント設備へとその基礎技術を展開。



技術研究所での技術開発をもとに誕生したのが
除粒子滅菌ろ過フィルター。
その後、遺伝子研究の関連分野で実験設備を
自動化するニーズが高まり、核酸自動分離装置
を開発。





- 軟質ウレタン
- 機能樹脂製品
- 住宅用建材
- 不織布など



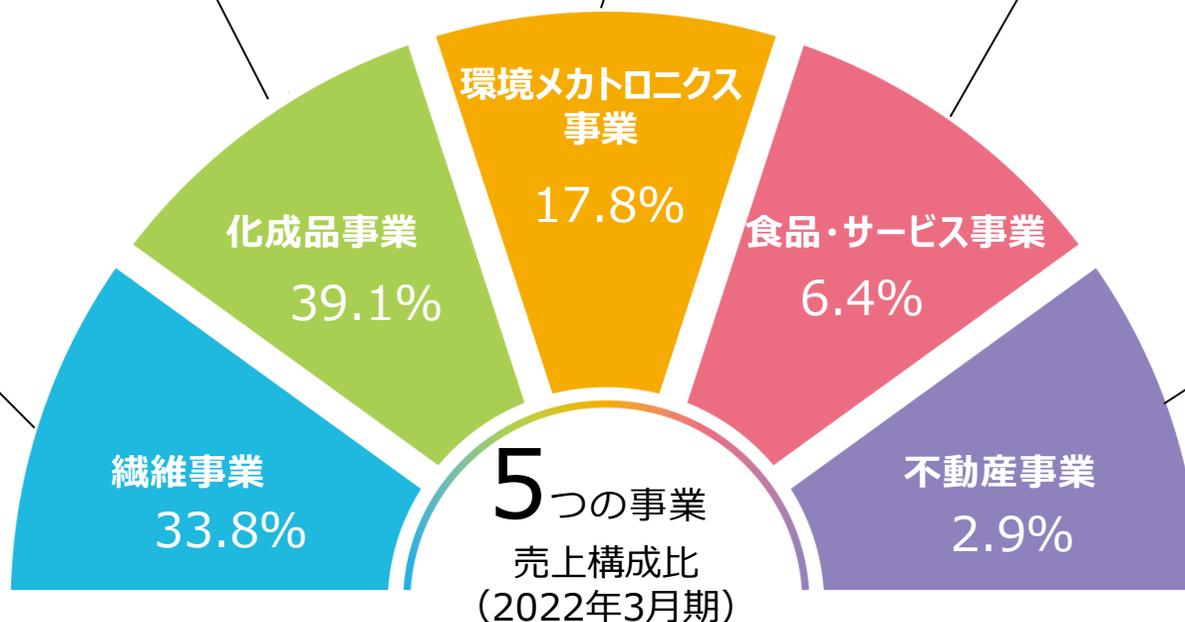
- エレクトロニクス
- エンジニアリング
- バイオメディカル
- 工作機械



- フリーズドライ食品
- ホテルなど



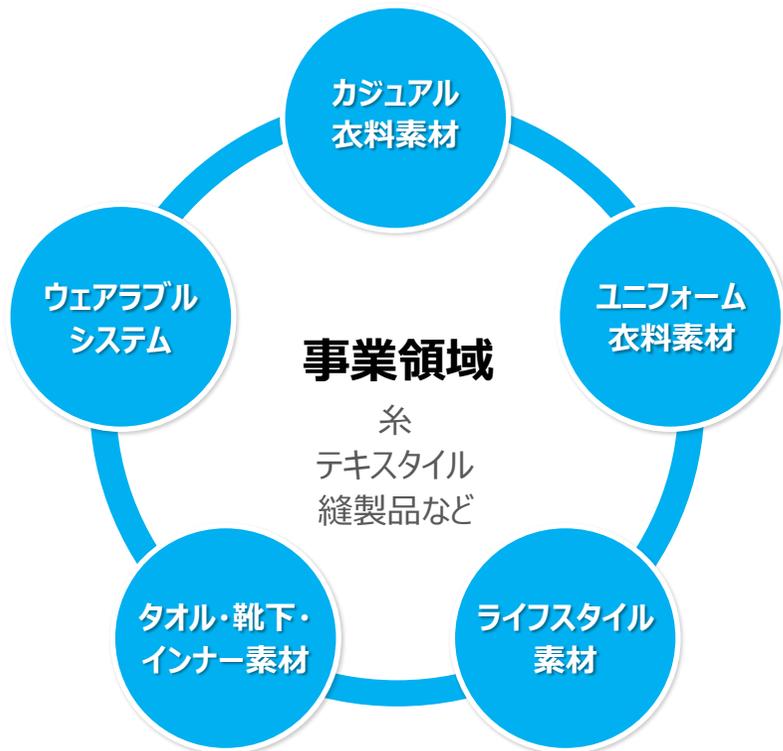
- 糸
- テキスタイル
- 縫製品など



- 不動産開発

繊維事業

紡績、織布、染色・加工、縫製における独自技術を活かし、糸では、原料改質技術を活用した高機能製品「NaTech（ネイテック）」の拡販等に注力。テキスタイルおよび縫製品などの繊維製品では、ユニフォーム分野においては、働く人へ安全と快適を提供するビジネスへの転換を進め、カジュアル分野においては、アップサイクルシステム「L∞PLUS（ループラス）」やサステナブル原料を活用した商品を展開しています。これらの取組みにより、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

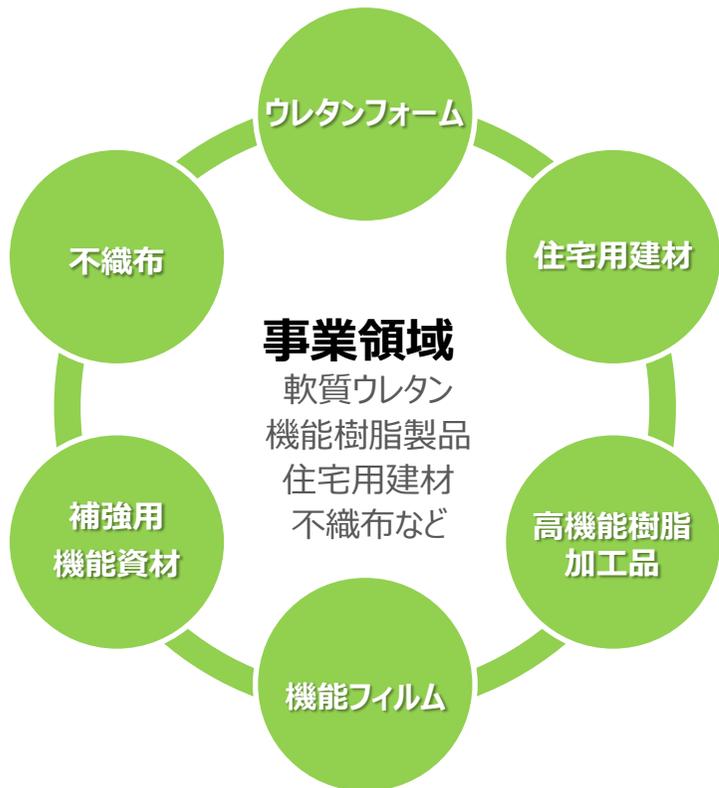


主な製品・技術

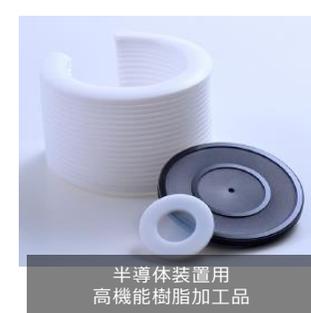


化成品事業

独自の原料配合と成形技術により、自動車内装材や住宅用建材・断熱材分野で差別化を強化し、半導体製造関連では高度な加工技術により高機能樹脂加工品を拡大。また、機能フィルムを自動車分野やエネルギー市場で展開するなど、独自技術により様々な市場において多彩な製品を提供しています。



主な製品・技術



環境 メカトロクス 事業

色のセンシング技術を軸に検査・計測機器でモノづくりの品質向上に貢献するエレクトロニクス事業。排水・排ガス処理技術などの環境プラント技術を基盤にバイオマス発電分野にも進出するエンジニアリング事業。創薬、化粧品開発、前臨床研究の領域で研究試薬や機器、サービスを提供するバイオメディカル事業。モノづくりのための機械をつくる工作機械事業。モノづくり、研究活動、エネルギー活用の分野で、暮らしの安全・安心・快適を支えています。

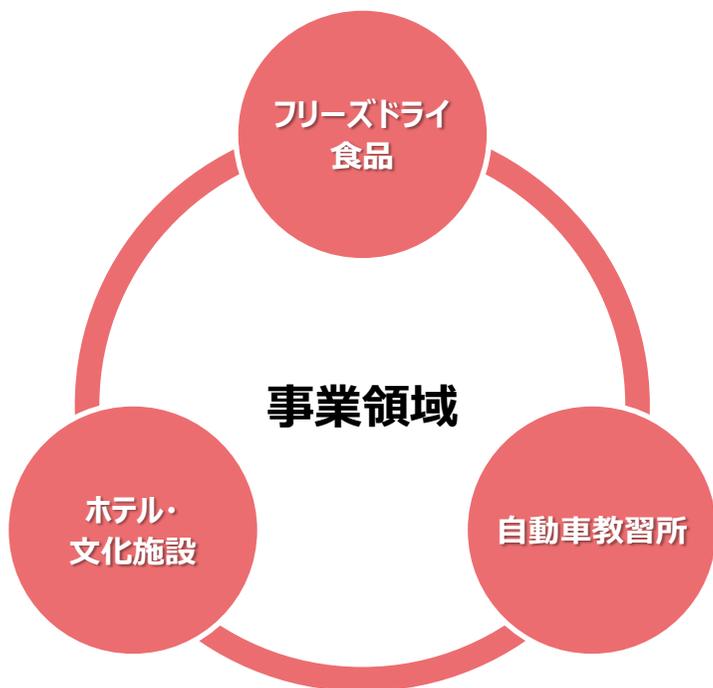


主な製品・技術



食品・サービス 事業

食品分野では「日本ジフィー食品」が成型スープなどのフリーズドライ食品を提供。
サービス分野ではクラボウ設立当時の工場を活用した複合文化施設である「倉敷アイビースクエア」
においてホテルを運営。また、「クラボウドライビングスクール」は地域の“安全”に貢献しています。



日本ジフィー食品

1960年設立の「日本ジフィー食品」はクラボウグループの食品事業を担っています。



倉敷アイビースクエア

赤煉瓦と蔦の外観が特徴的な「倉敷アイビースクエア」は観光名所にもなっています。

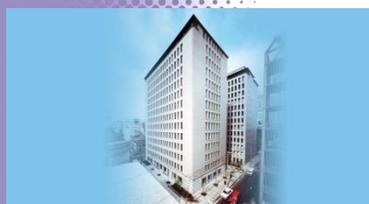
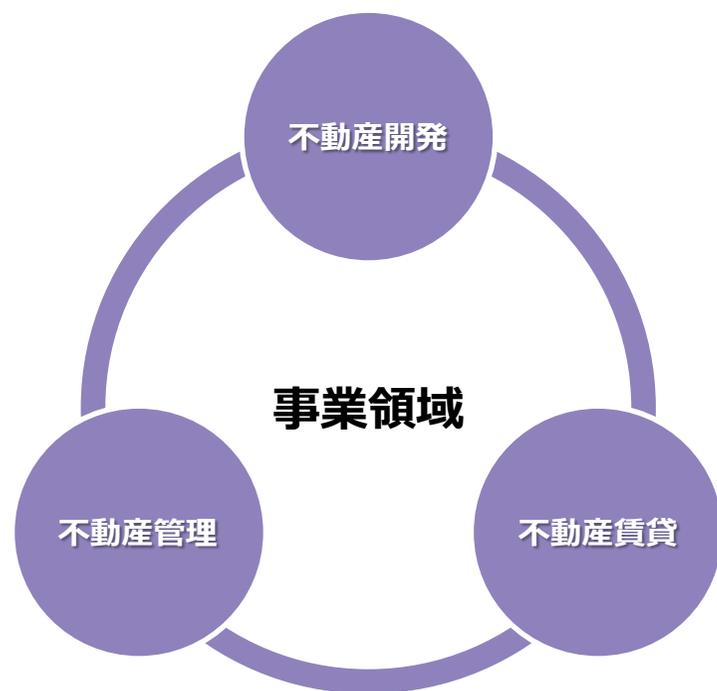


クラボウドライビングスクール

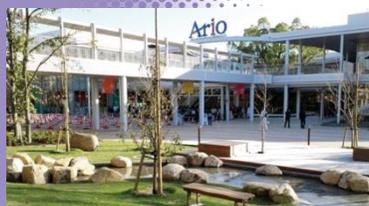
運転の教習を通じて地域の“安全”に貢献している「クラボウドライビングスクール」。

不動産事業

クラボウでは全国に多数の工場および関連施設を有しており、その遊休地を有効活用し、資産の健全な運用や、地域への貢献を視野に入れた活動を推進しているのが不動産事業です。



資産の有効活用を目的にテナントビルとして運用している「クラボウアネックスビル」。



大型ショッピングモールを中心とする土地の再開発事業に関わり、地域の活性化に貢献。



エネルギー問題の解決に大きな期待がかかるメガソーラー施設へ用地を提供。

技術研究所では、自由な発想によるイノベーションと知財戦略との連携により、クラボウグループの未来を支える研究開発に取り組んでいます。



研究開発テーマ

- FA・ロボット
(環境メカトロニクス事業)
- 半導体製造関連
(化成品事業、環境メカトロニクス事業)
- 遺伝子抽出・解析
(環境メカトロニクス事業)
- 機能素材
(繊維事業、化成品事業)

分野を越えた交流から差別化技術を生み出す独自体制



クラボウ先進技術センター

2016年に竣工した「クラボウ先進技術センター」は技術研究の中心拠点として、先端の実験装置・評価設備を導入し、挑戦的な技術や商品の開発に取り組んでいます。

2022年3月期 の業績

～ 不採算事業の収益改善と、注力事業の業容拡大により増収増益を実現 ～

(百万円)	21/3期 実績		22/3期 実績		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	122,184		132,215		+10,030	8.2%
売上原価	99,805	81.7%	104,863	79.3%	+5,058	5.1%
販管費	19,172	15.7%	19,823	15.0%	+650	3.4%
営業利益	3,206	2.6%	7,528	5.7%	+4,321	134.8%
経常利益	4,242	3.5%	8,783	6.6%	+4,540	107.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,209	1.8%	5,602	4.2%	+3,393	153.6%

※収益認識会計基準等の適用により、2022年3月期の売上高は108億円減少し、営業利益、経常利益はそれぞれ6千万円増加しております。
また、前期比については、会計基準の変更を加味せず、単純比較により算出しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けるなか、原材料価格の高騰やサプライチェーンの混乱による生産停滞、部品の調達難などの要因も加わり、本格的な景気回復には至らないものの、構造改善策の取組みにより繊維事業などの基盤事業の収益が回復するとともに、高機能樹脂加工品や検査・計測機器など半導体関連事業が好調に推移し、大幅な増収増益を実現しました。

	(百万円)	21/3期 実績		22/3期 実績		前期比	
			利益率		利益率		増減率
繊維事業	売上高	42,185		44,669		+2,484	5.9%
	営業利益	△1,824	—	△177	—	+1,647	—
化成品事業	売上高	48,555		51,695		+3,140	6.5%
	営業利益	1,408	2.9%	2,978	5.8%	+1,569	111.4%
環境メカトロニクス事業	売上高	18,695		23,593		+4,898	26.2%
	営業利益	1,560	8.3%	2,776	11.8%	+1,216	78.0%
食品・サービス事業	売上高	8,683		8,461		△222	△2.6%
	営業利益	277	3.2%	271	3.2%	△6	△2.2%
不動産事業	売上高	4,065		3,795		△269	△6.6%
	営業利益	2,846	70.0%	2,746	72.4%	△99	△3.5%

【繊維事業】

糸販売はブラジルを中心とした海外子会社の受注が回復し順調に推移。テキスタイルや縫製品などの繊維製品もカジュアル衣料の受注増により回復傾向となり、生産面でも構造改善策を進め、赤字が縮小。

【化成品事業】

軟質ウレタンは自動車の生産水準が回復傾向も半導体不足の影響が残る。

住宅用建材も低調に推移するが、機能樹脂製品は好調な半導体業界の影響を受けて業容が拡大。

【環境メカトロニクス事業】

エレクトロニクスは好調な半導体業界の影響を受け、液体成分計や基板検査装置、ウエハ洗浄装置等の関連商品が好調に推移、エンジニアリングも排ガス処理設備などの環境装置が堅調。

【食品・サービス事業】

コロナ禍の影響により、ホテル関連が低調であったものの、食品は内食需要の増加により成型スープが好調。

【不動産事業】

一部の賃貸物件の契約期間満了による影響があったものの、総じて安定的に推移。

(百万円)	21/3期実績	22/3期実績	増減
流動資産	78,087	78,397	+310
（現金及び預金）	(22,120)	(14,116)	(△8,004)
固定資産	92,346	88,888	△3,457
（有形・無形固定資産）	(52,930)	(51,064)	(△1,865)
（投資その他の資産）	(39,416)	(37,823)	(△1,592)
資産合計	170,433	167,285	△3,147
流動負債	47,292	42,761	△4,530
固定負債	28,136	27,109	△1,027
負債合計	75,428	69,870	△5,557
純資産	95,004	97,415	+2,410
（株主資本）	(91,620)	(94,461)	(+2,840)
負債・純資産合計	170,433	167,285	△3,147
自己資本比率	54.8%	57.4%	+2.6 pp
ROA（総資産営業利益率）	1.9%	4.5%	+2.6 pp
ROE（自己資本純利益率）	2.4%	5.9%	+3.5 pp

22/3期実績
1株当たり配当金
(円)

70

※2022年5月12日決議
自己株式の取得 上限：110万株、20億円
自己株式の消却 75万株

新中期経営計画 「Progress '24」

長期ビジョン2030

目指すべき姿：イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ

「Creation '21」
イノベーションによる収益
拡大と企業価値の向上

「Progress '24」
高収益事業の拡大と持続可能な
成長に向けた基盤事業の強化

【長期ビジョン2030】
イノベーションと高収益を
生み出す事業体制への変革

2019.4 前中期経営計画

2022.4 新中期経営計画

2025.3

2031.3

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
より良い未来社会の実現

成長・注力事業

成長市場における注力
事業への経営資源の集中

高収益

持続的
成長

基盤事業

収益力の強化

ESG経営の推進

— 前中期経営計画の概要 —

【基本方針】

イノベーションによる収益拡大と企業価値の向上



【重点施策】

- ① 高付加価値ビジネスの拡大
- ② 海外事業の強化・拡大
- ③ R&D活動の推進と新規事業創出
- ④ 多様な人材の活躍推進
- ⑤ クラボウブランドの価値向上と信頼される企業づくり

— 数値目標と実績 —

(億円)	22/3期 目標
売上高	1,700
営業利益	90
経常利益	95
親会社株主に帰属する当期純利益	65
ROA	5.0%
ROE	6.6%



22/3期 実績	差異
1,322	△377
75	△14
87	△7
56	△8
4.5%	△0.5 pp
5.9%	△0.7 pp

【数値目標が未達となった理由】

- 世界的なコロナ禍に伴う、基盤事業（繊維、軟質ウレタン、住宅用建材）の回復の遅れが主因
- 収益認識基準の適用等の影響もあり
- 特に、「繊維事業」は、市場の縮小、物流の停滞、ロックダウンによる海外生産拠点の閉鎖、といった影響を大きく受け、黒字転換に遅れ
- 同様に、「軟質ウレタン事業」（化成品事業）や「住宅用建材事業」（化成品事業）についても、自動車生産台数の減少、原材料の高騰により下振れる結果となった

一 重点施策等の総括 一

	総評	主な成果	課題
①高付加価値ビジネスの拡大	○	半導体製造関連事業が拡大	繊維独自技術商品は拡販未達
②海外事業の強化・拡大	×	ブラジル内販やタイビジネスの収益改善、環境メカトロニクス事業の拠点整備	コロナ禍による出張制限やサプライチェーン停滞等で、拡大に至らず
③R&D活動の推進と新規事業創出	△	ロボットセンシングやIn-Situ計測の技術開発は進展、関連企業をM&A	ロボットビジョンやスマートフィットは事業化の進捗遅延
④多様な人材の活躍推進	○	D&Iを推進し、多様な人材が働きやすい人事制度への改革を実現	—
⑤クラボウブランドの価値向上と信頼される企業づくり	△	安定配当の実施、CSR活動の推進、企業PRを積極的に実施	株価の向上は未達
不採算事業への取り組み <ul style="list-style-type: none"> 国内工場やブラジル不採算工場の閉鎖による余剰設備の廃止と集約化 海外関係会社等への定番品の商圏移管 タイの紡績・織布子会社の統合による生産の効率化 独自技術による付加価値の向上 	△	「Progress '24」に向けて、「繊維事業」の黒字化に目途特に国内工場については、高付加価値を生み出す収益基盤として強化	コロナ禍に伴う市場やサプライチェーンの停滞により、構造改革の効果が十分に発揮できなかった。結果的に、黒字化が遅延

「長期ビジョン2030」の実現



【基本方針】

高収益事業の拡大と持続可能な成長に向けた基盤事業の強化

【重点施策】

- ① 成長・注力事業の業容拡大と基盤事業の収益力強化
- ② R & D活動の強化による新規事業創出と早期収益化
- ③ SDGs達成への貢献
- ④ 多様な人材の活躍推進

【全社目標】

(億円)	22/3期実績
売上高	1,322
営業利益	75
経常利益	87
親会社株主に帰属する当期純利益	56
売上高営業利益率	5.7%
ROE（自己資本純利益率）	5.9%
ROA（総資産営業利益率）	4.5%
ROIC（投下資本利益率）	4.6%



25/3期目標	増減	CAGR
1,600	+277	6.6%
96	+20	8.4%
102	+14	5.1%
72	+15	8.7%
6.0%	+0.3 pp	
7.0%	+1.1 pp	
5.3%	+0.8 pp	
5.6%	+1.0 pp	

※CAGR=Compound annual growth rateの略。
年平均成長率のこと（以下、同様）

【事業別目標】

	(億円)	22/3期実績
繊維事業	売上高	446
	営業利益	△1
化成品事業	売上高	516
	営業利益	29
環境メカトロニクス事業	売上高	235
	営業利益	27
食品・サービス事業	売上高	84
	営業利益	2
不動産事業	売上高	37
	営業利益	27



25/3期目標	増減	CAGR
540	+93	6.5%
8	+9	黒字化
630	+113	6.8%
39	+9	9.4%
290	+54	7.1%
30	+2	2.6%
103	+18	6.8%
7	+4	37.2%
37	△0	—
23	△4	—

【重点施策】

① 独自技術を活用した高機能素材やサステナブル素材の販売拡大

- 「NaTech（ネイテック）」等の高機能素材は、前中計で開発および量産体制を整えており、糸から製品までの一貫した展開を進めることで、高付加価値ビジネスの拡大を目指す
- 「L ∞ PLUS（ループラス）」等のサステナブル素材を活用した取組みをすすめ、ビジネス拡大に繋げる
また、共創ビジネスでの展開を強化し、繊維業界におけるサステナブルの推進に貢献する

② サプライチェーン全体を意識したQR対応と生産性向上

- 海外拠点を含めたサプライチェーン全体でのQR対応力を強化し、効率的な適地生産と適地販売体制を構築するとともに、スマートファクトリー化も進めていく

(億円)	22/3期 実績	25/3期 目標	増減	CAGR
売上高	446	540	+93	6.5%
営業利益	△1	8	+9	黒字化
営業利益率	-	1.5%	-	
設備投資計画 (3期累計)		35		
減価償却費 (3期累計)		38		

【重点施策】

① 半導体やエネルギー関連市場における注力事業への経営資源集中

- 高機能樹脂加工品、機能フィルム、機能資材、不織布を注力事業と位置づけ、経営資源を集中
- 特に、高機能樹脂加工品では、生産能力拡大により半導体業界の旺盛な需要を取り込む
- 機能資材は、市場拡大が見込まれる熱可塑性炭素繊維シート「クラパワーシート」の早期事業化に注力

② 軟質ウレタンや住宅用建材など基盤事業の生産体制の効率化と新規ビジネスの拡大

- 安定した収益確保に向けて価格是正や生産体制の効率化に注力する
- 3Dプリンタによる成形技術の確立や造形材ビジネスなど、新商品開発や新市場開拓にも取り組む

(億円)	22/3期 実績	25/3期 目標	増減	CAGR
売上高	516	630	+113	6.8%
営業利益	29	39	+9	9.4%
営業利益率	5.8%	6.2%	+0.4 pp	
設備投資計画 (3期累計)		90		
減価償却費 (3期累計)		72		

【重点施策】

① 商品力強化による競争優位性の獲得と海外市場への拡販

- 新技術であるロボットビジョンシステム等の商品開発を強化するとともに、半導体関連の検査・計測ビジネスの拡充を図ることにより、FAや半導体業界での事業拡大を目指す
- 海外規格への対応を強化し、海外市場への拡販に注力する

② 社会課題の解決に貢献する商品群の市場投入

- 環境装置関連やインフラ検査、遺伝子抽出・解析関連商品等の社会課題解決に貢献する商品・サービスを拡充し、差別化を図る

(億円)	22/3期 実績	25/3期 目標	増減	CAGR
売上高	235	290	+54	7.1%
営業利益	27	30	+2	2.6%
営業利益率	11.8%	10.3%	△1.5 pp	
設備投資計画 (3期累計)		13		
減価償却費 (3期累計)		24		

基本方針

成長市場における当社グループの注力事業に**経営資源を集中**し、業容拡大を図るとともに、**基盤事業の収益力強化**に注力する

成長市場

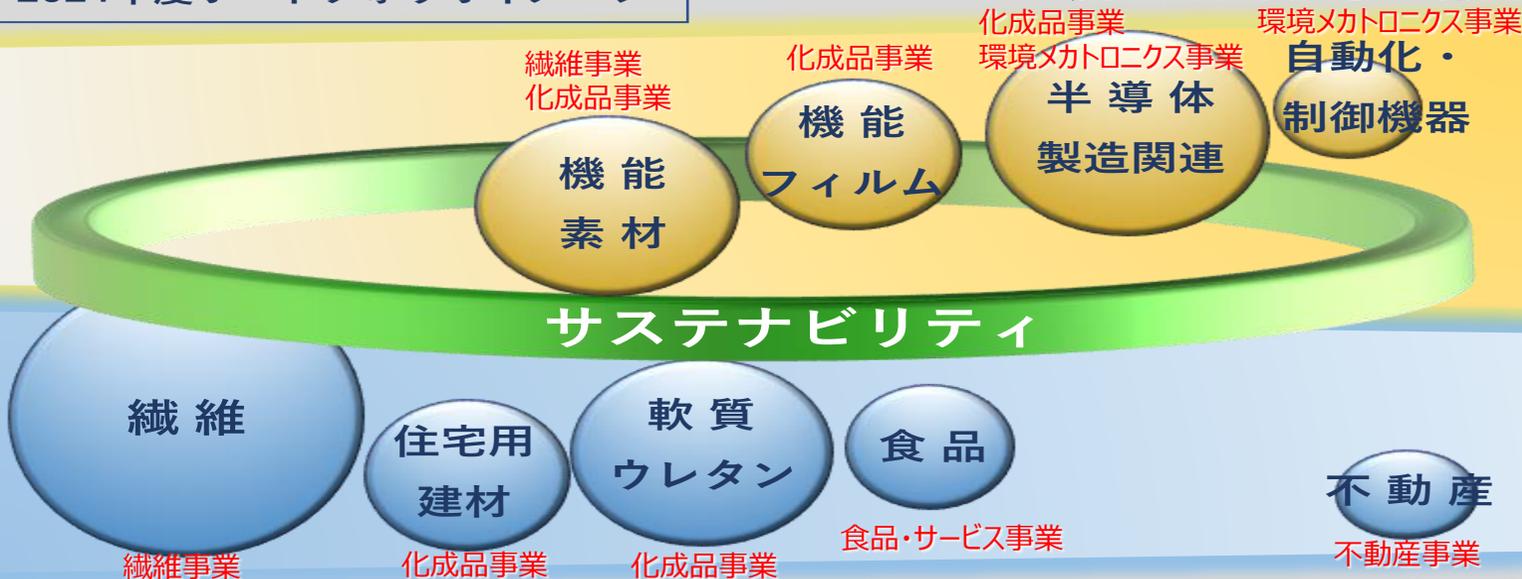
半導体 FA・ロボット インフラ 環境・エネルギー 医療等

2024年度ポートフォリオイメージ

(円の大きさは売上規模を表す。)

注力事業
基盤事業

高
↑
市場の成長性
↓
低



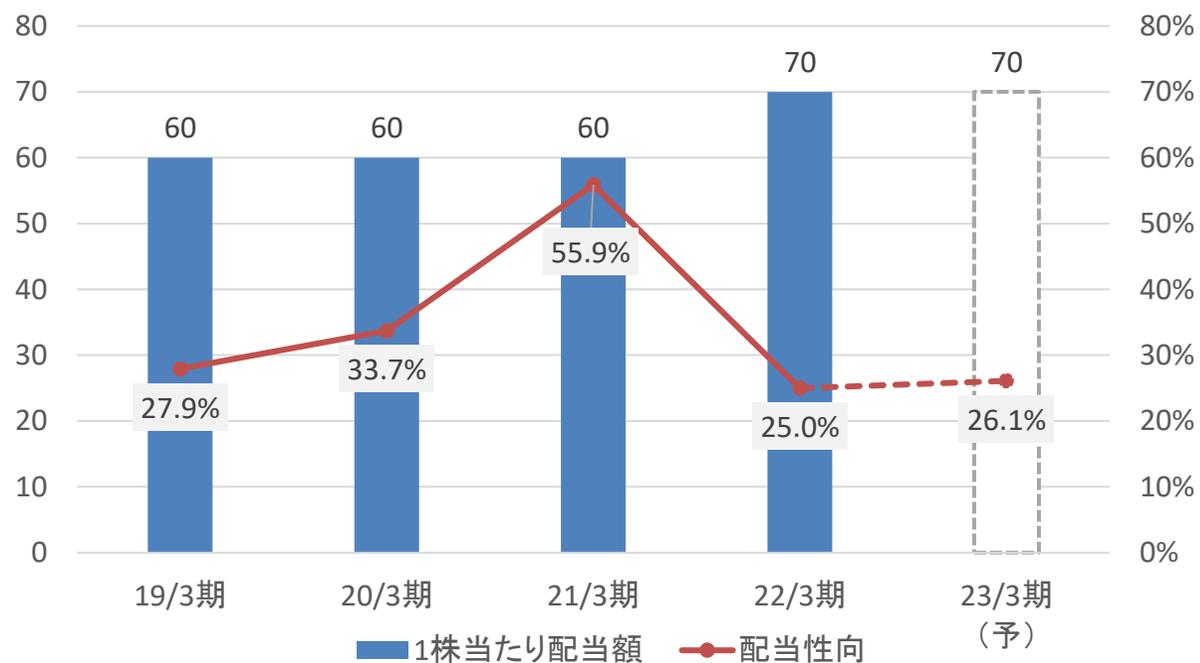
低 ← 収益性 → 高

成長・注力事業への積極投資を通じて、高収益事業の拡大を図るとともに、**基盤事業の収益体質の改善**にも取り組み、事業ごとに**ROICを意識**した経営を行う。
 加えて、**一定の財務規律**を維持しながら、**資本効率**にも配慮した財務方針により**ROEの向上**を図る。



安定的かつ継続的な利益還元を基本とするが、
 その他株主還元策として**自己株式の取得**も併せて検討し、
 本中計期間における**総還元性向は50%以上**を目標とする。

【配当推移】



SDGsへの取組み

【基本方針】

持続的な社会の実現に貢献するためには、企業自らが持続的な企業価値の向上を目指さなければならないと考えており、付加価値の高い技術や商品・サービスを創出し、高収益事業を育成・拡大するとともに、当社グループの経営理念である

「私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。」のもと、以下の実践に努める。

- 
- ① 事業を通じた社会課題解決への貢献
 - ② 地球環境の保全を意識した事業活動の推進
 - ③ 人権の尊重および、働きやすさとやりがいのある職場環境の整備
 - ④ 信頼される企業づくりの推進

事業と関わりの深いSDGs

関連するSDGs	関連する事業活動
繊維事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供 ● 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築 ● 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用 ● 熱中症対策、感染症対策のサポート
化成品事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅のエネルギー効率改善 ● 再生樹脂の利用促進 ● 間伐材の利用促進 ● 廃材のリサイクル活用
環境メカトロニクス事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全 ● 再生可能エネルギーの利用促進 ● 間伐材等廃棄物の利用促進 ● 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援 ● 和牛の血統管理による生産効率向上 ● 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生
食品・サービス事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全で栄養価の高い食品の提供 ● 災害備蓄対策
全社共通・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ● 柔軟な働き方の実現 ● 社会貢献できる技術基盤の構築 ● 不動産賃貸を通じた住みやすい街づくり ● ゼロエミッションの推進

最も重視するテーマ
(マテリアリティの特定)



+

多様な人材の活躍推進等

繊維事業

- 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供
- 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築
- 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用
- 熱中症対策、感染症対策のサポート

■ 取組み事例

NaTech

天然繊維に機能性を持たせることができる
独自技術素材。暖かさ、消臭、吸放湿などの
機能を付与でき、洗濯耐久性に優れます。



LoopPlus

ループプラス

服の裁断くずや不要な製品から再資源化する
独自のアップサイクル技術を活用した循環型
ビジネスの構築を目指しています。



AIR FLAKE

SUSTAINABLE INSULATION

100%リサイクル原料で実現した、天然羽毛
レベルの軽さ、保温性、やわらかさ、乾きやすさ
が特長の中わた素材です。



化成品事業

- 住宅のエネルギー効率改善
- 再生樹脂の利用促進
- 間伐材の利用促進
- 廃材のリサイクル活用

■ 取組み事例

クラティスエコ KURATTICE ECO

アルミなどの芯材に木粉入り樹脂をコーティングした合成木材。天然木調などの意匠性と金属の強度を併せ持つ建材・産業資材です。



12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



クランゼロ®シリーズ

ノンフロンで断熱性に優れた新しい発泡剤を使用した高性能硬質ウレタンフォーム断熱材で、優れた気密性と断熱性で快適な住環境を実現します。



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



クランシール®シリーズ

ゴムのような弾性とプラスチックの優れた加工性を併せもつエラストマー素材のフィルムです。太陽電池や建材ガラスの中間膜などの用途で、環境や安全・快適に貢献します。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



11 住み続けられる
まちづくりを



環境 メカトロクス 事業

- 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全
- 再生可能エネルギーの利用促進
- 間伐材等廃棄物の利用促進
- 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援
- 和牛の血統管理による生産効率向上
- 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生

■ 取組み事例

路面検査コンパクトユニット PG-4

3Dカメラ、距離計、GPSを搭載し、時速100kmで走行しながら短時間で路面の損傷を計測することでインフラ劣化診断の効率化が図れます。



強力な殺菌・乾燥能力を有し、家畜の糞尿を含む使用済み敷料を、サラサラでクリーンな堆肥に繰り返し再生します。



バイオマス発電事業

間伐材などを燃料としたバイオマス発電事業を展開しており、一般家庭約11,000世帯分の年間使用電力量相当の発電を行っています。



ダイバーシティ&インクルージョンや**フレックスタイム・テレワーク制度**などの**柔軟な働き方の推進**により、多様な人材が個々の能力を最大限に発揮し、**自律的に業務を進めることのできる企業風土づくり**を推進してきた。

今後はさらに、企業価値を持続的に向上させる**事業変革力を持った社員を育成**するとともに、社員が組織に主体的に貢献する**「エンゲージメントの高い組織」**の構築を目指す。

【主な取り組み】

活力ある組織風土の醸成	<ul style="list-style-type: none">・社員の力を引き出すエンパワメントの推進・ダイバーシティ&インクルージョンの推進・アンコンシャス・バイアスの理解浸透
柔軟な働き方の推進	<ul style="list-style-type: none">・フレックスタイム、テレワーク制度の定着・有給休暇の取得促進、時間単位有休制度の活用・健康経営の推進
多様な人材の確保と育成	<ul style="list-style-type: none">・採用力の強化・事業変革力強化のためのIoT推進、DX技術活用教育

政府目標である、**2030年CO₂削減**（2013年比46%減）及び **2050年カーボンニュートラル**の達成に向けて、**CO₂削減のための推進体制を強化**し、次の具体的施策を進める。
また、「**TCFD**」への**対応**や**開示**についても、本中期経営計画の期間中に検討する。

【具体的施策】

- ① 省エネ機器の導入、設備更新による省エネルギー対策
- ② 化石燃料の使用比率が高い生産拠点におけるCO₂削減策の実施
- ③ 徳島バイオマス発電や再生可能エネルギーの積極的活用

2023年3月期の 通期業績予想

～ アフターコロナに向けて増収となるも、原材料の高騰や先行投資の影響等により一旦減益となる見通し ～

(百万円)	22/3期 実績		23/3期 予想		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	132,215		145,000		+ 12,785	9.7%
営業利益	7,528	5.7%	7,000	4.8%	△528	△7.0%
経常利益	8,783	6.6%	7,600	5.2%	△1,183	△13.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,602	4.2%	5,300	3.7%	△302	△5.4%
設備投資額	3,608		6,300		+ 2,692	74.6%
減価償却費	5,191		5,500		+ 309	6.0%

2023年3月期 通期業績予想：セグメント別

	(百万円)	22/3期 実績		23/3期 予想		前期比	
			利益率		利益率		増減率
繊維事業	売上高	44,669		51,000		+6,331	14.2%
	営業利益	△177	—	0	—	+177	—
化成品事業	売上高	51,695		57,000		+5,305	10.3%
	営業利益	2,978	5.8%	3,300	5.8%	+322	10.8%
環境メカトロニクス事業	売上高	23,593		24,000		+407	1.7%
	営業利益	2,776	11.8%	2,000	8.3%	△776	△28.0%
食品・サービス事業	売上高	8,461		9,300		+839	9.9%
	営業利益	271	3.2%	500	5.4%	+229	84.5%
不動産事業	売上高	3,795		3,700		△95	△2.5%
	営業利益	2,746	72.4%	2,300	62.2%	△446	△16.2%

Appendix

8ヶ国 79拠点



クラボウグループは事業所、生産拠点、関係会社をブラジル、タイ、インドネシアなど国内外8ヶ国に展開。関係会社およびその拠点の総数は国内を含めて79拠点あり、開発・生産・販売機能を組み合わせたグループネットワークでお客様にとっての最適なソリューションを提供しています。

将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績を確約するものではありません。実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。

また、本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。本資料への当社に関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。